

書道教室とVG槻輪の コラボ活動報告

蛍は高槻の 自慢の虫です

毎月のVG槻輪「わがまち紹介」であちこちの自慢処を教えてもらっています。今回は私が番外編で近場の上ノ口の蛍の見どころをVG槻輪有志と清水コミセンの書道教室有志のコラボで企画しました。最近の異常気象や芥川上流の山や川や水質の変化で蛍が現われてくれるか、天候は？等々こわごわでした。



蛍鑑賞の皆さん

夕闇が迫り、ついに足元に懐中電灯を差し向けようかとした時、樹の間にふわふわと飛ぶ光が見えました。感激の一瞬です。呼びかけ人としてほっとした瞬間でもありました。眼が暗闇に馴れてくると、“あそこにはほら！” “ここにも”・・・と子ども時代

に戻ったような晴れやかな声が聞こえてきます。



モリアオガエルの卵

真つ暗な河原に降りることを躊躇っていた人も無理やり手を取られ、一歩づつこわごわ降りた甲斐あって、蛍の舞う幻想の世界に浸る事が出来ました。蛍の光で勉学に勤しむなんて全く野暮な例えです。

あのゆつたりとした飛び方と点滅間隔と色調は人工では作れない貴重なものです。中学校時代、理科の先生が蛍のように熱のない明るさを作り出せばノーベル賞ものだよと生徒を鼓舞したことを思い出しました。辺りにはモリアオガエルの卵や三光鳥という珍しい渡り鳥もやってくるのか、高槻の自慢処が確認できて、大満足でした。毎月のわがまち紹介で細かい気配りをしてくださる苦労もわかりました。これからもできる限り各所の自慢処を見て、聞いて、人生豊かに生きていきたいものです。

記・写真：上村サト子

会員だより

我が同志「カマキリ君」

5月中旬のある朝の事です。家庭菜園に立ててある支柱とその周辺に置いてある長靴や板台がモヤモヤとした綿毛のようなもので覆われていました。



殻から抜け出したところのカマキリ



1ヶ月あまりの成長したカマキリ

一瞬気持ち悪くて払い除けましたがよく見るとカマキリが半年以上支柱についていた殻を抜け出して、この世の光を浴びたところでした。運悪く当日カメラを持ち合わせず、携帯で撮って、少し不鮮明な映像でした。数日前から、夫はカマキリが殻の中で死んでしまったかと心配

していたところでした。早速夫は読売俳壇投稿、今朝生(あ)れて狩の姿勢ぞ小端唄(ことうろう)カマキリ君のお蔭で入選しました。またもや7月の初めです。三倍くらいに成長したカマキリが生まれた時と同じく鎌を振りかざし、攻撃の構えで同じ支柱から私を睨んでいました。カマキリ君はこのひと月余りの間、無農薬野菜に挑戦する私たちの敵と称する害虫を食事の糧としてここまで大きくなってくれたかと思うと我が同志の感ありです。暑い夏も野菜とカマキリをはじめ益虫と害虫と雑草と水の戦いです。

記・写真：上村サト子

富貴蘭(風蘭)

富貴蘭は、素朴な白い花を咲かせる東洋蘭の1種です。花の香りがよく、花だけでなく葉も鑑賞するのが楽しみです。富貴蘭の花から漂う香りは、甘いバニラのような独特のもので、玄関におくと爽やかな甘い香りでお客様をお迎えます。花言葉として、“恋の成就”、“成熟した魅力”、“優雅な女性”などがあります。育て方としては、風通しがよい明るい日陰がよいとのことで、普段は庭の梅の木の枝につり下げています。庭の草木に水を蒔くときにたっぷりと水を与えています。

記・写真：大岡 津奈子



風蘭や木蔭に風の
一つかみ
正岡子規
おもふん
ありて風蘭
吊るしけり
加田玲

楽しく“たわし編み”できました！！

レク行事で、毛糸のたわし編みをしました。一本の毛糸を左手の五本の指を使ってあむのです。指一本ずつに糸を交互に巻いてゆき、次に反対側に糸を渡して一本の指に、輪になるようにします。毛糸を手前に渡して、その糸をくぐらせて編むのです。

お茶の時間でしたが、みんなコーヒーの冷めるのも忘れて一生懸命取り組みました。

やってみると、左手の指を毛糸をくぐらせるとき、うまく動かすと早く編めます。指の運動が出来て頭も遣い、よいレクレーションでした。

記・写真：牧戸富美子



私の“たわし”出来上がり